

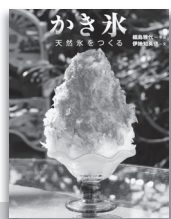
今月の

ブックトーク

8月「ひんやりつめたいたべもの」

鈴木 千尋／和光小学校学校司書

毎日本当に暑いですね。こんな日には冷たい食べ物でひんやりしたくなります。そこで今日は、気分だけでも涼しくなれそうな本を紹介します。



細島 雅代・写真
伊地知 英信・文
岩崎書店

まず1冊目は、表紙を見るだけで涼しくなれそうな『かき氷 天然氷をつくる』です。みなさんはかき氷を作る時、冷凍庫で氷を作りますよね。でも昔は冬にできた氷を夏まで保存して使っていました。これを天然氷と言います。埼玉県長瀬で100

年以上も前から続く氷屋の阿左美さん一家は今でも、山間にある専用の池で大きな氷を作り氷室に保存します。毎日落ち葉をどけてきれいにしたり、機械と手作業の両方で丁寧に切り出したり…。阿左美さんが手間暇かけて天然氷を作る日々を追ったノンフィクション写真絵本です。口の中でずっと溶けていくかき氷のスプーンの一口にも、氷を作った人の熱い思いがたくさん込められていることがよくわかる1冊です。

さて、こちらの冷たいソフトクリームにも、作り手の温かい心が込められています。岩手に実在する大食堂をモデルに描かれた『万丸食堂、奇跡のソフトクリーム』。みな



山本 悦子・作
理論社

さんは箸でつまめるソフトクリームなんて出会ったことがありますか？万丸食堂の10段重ねの奇跡のソフトクリームがそうなんです。でも10段だから奇跡というわけではありません。このソフトを食べると二度と会えない人に会えるとか、信じがたい出来事が起こるとかいう噂があるのです。しかも空見子さんという人が作る時に奇跡が起きるらしくて…？そこを訪れソフトクリームを注文した人に起こった、不思議で心が

温まるお話が6つ。空見子さんの秘密も明らかになり、人びとの優しい気持ちが時空を超えてつながります。あなたなら、どんな奇跡を願いますか？

暑い日には、つるんとのごちそうがよい、ざるそばもいいですね。『てんぐのそばや』はそば打ちの得意なてんぐが、山を下り人間の街で始めたそば屋さんのお話です。隣のくすり屋のおばに嫌味を言われたり、味はいいのになかなかお客が来なかつ



伊藤 充子・作
横山 三七子・絵
偕成社

たり大苦戦。でも、クリーニング屋のおじさんやコノハというカラスも手伝ってくれ、あることをきっかけにだんだんお客がくるようになってきます。てんぐは自慢癖があって、それが始まると鼻の中に住むじまんバチが騒ぎ出し、おかしいことに鼻が大きくなってしまいます。でも、自慢するだけあって、てんぐの作るそばはおいしいそう！暑い日には6人で来たおばさんたちが、一人5枚ずつもせいろを注文したくらいです。きっと皆さんも食べてみたくなると思いますよ。

そばと同じで夏によく食べるものにそうめんがあります。そうめんは細いのになぜ料理の途中で切れてしまわないか知っていますか？その答えは『大人も知らない？料理と食事のふしぎ事典』に載っています。他にも夏



星 玲奈・著
齋藤 穂ほか・イラスト
マイクロマガジン社

おいしいスイカは、塩をかけて食べるとなぜ甘く感じるのか、とか冷やすとおいしい果物と、冷やさない方がいい果物の違いなど、身近な食べものにまつわる不思議がたくさん！これを読むと毎日の食事がより楽しくな

